

ナガモッコク尾根から岩原山を歩く 第104回 武庫川エコハイク

2015. 12. 12. エコグループ武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の7市1町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える2級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、平成22(2010)年10月、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

太多田川(おたがわ) 有馬街道が川筋を通り、交通の難所で「四十八ヶ瀬」とか「四十八飛び」といわれていた。「うたたび(転び)川」から「太多田川」となったともいわれる。船坂集落を源流として全長約5km。武庫川水系2級河川。

有馬街道 尼崎神崎から小浜宿、生瀬宿を経て太多田川沿いに有馬温泉に至る古道。豊臣秀吉が何度か通ったことで知られる。

有馬高槻構造線 有馬から太多田川沿い、宝塚市、池田市の山麓を走り、高槻市に至る大きな活断層、阪神淡路大震災では動かなかった。この断層を境に南側は六甲花崗岩層、北側は有馬層群である。見られる所は、武庫川渓谷兩岸、有馬付近の山地。年代は、中世代白亜紀(7200万年～7500万年前)。地層の特徴: 激しい火山の活動によって噴出した流紋岩(りゅうもんがん)質の火山灰や火砕流(かさいりゅう)、溶岩が固まって出来た地層や火山岩である。火山灰が固まった凝灰岩(ぎょうかいがん)、周りの岩石をとりこんで固まった凝灰角レキ岩、火山から噴き出した岩石と高温のガスが一緒になって地表を高速で流れ出す火砕流が固まった溶結凝灰岩など色々な岩石で出来ている。これらが地表に噴出して固まったのが有馬層群であるが、マグマが地下でそのまま固まったのが六甲山地をつくっている花崗岩である。

座頭谷 太多田川最大の支流、延長約1.8km。昔、有馬に向かっていた座頭が有馬街道で分岐道を誤り荒地の谷に迷い込んで遭難したことから「座頭谷」といわれる。座頭谷には20を越す砂防堰堤がある。

蓬莱峡温泉跡 現在尼崎信用金庫保養所。昭和15(1940)年～25(1950)年蓬莱峡温泉(冷泉・炭酸泉)があった。

知るべ岩 「知るべ岩バス停」を20m進んだところ、太多田川と座頭谷との分岐にある古い道標「みぎありま道」と刻まれている。岩の上には知るべ岩と名付けられた由来を刻んだ碑がある。

蓬莱峡 花崗岩の破碎帯が風化浸食されて、大剣、小剣などむき出しになった花崗岩の奇岩がある景勝地。旧山口村長が朝鮮海金剛の景勝地蓬莱山に似るとして命名したという。

六甲砂防第1号 明治25(1892)年の大水害を契機に水源涵養、改修、砂防堰堤などの工事が兵庫県良元砂防工営所を中心に砂防工事が進められ、昭和13(1938)年の大水害でも無傷だったことから国営六甲砂防工事事務所が設立され引き継がれた。

鎧積堰堤 知るべ岩の大きな砂防堰堤は「鎧積堰堤」で落水が直接目地に当てない構造。

古代我孫子十二神所と東六甲 古代人は巨石に神宿るとして巨石信仰を持ち、この地区は長尾山系から六甲山系にいたる各所に我孫子十二神所があった。中山寺奥の院とその上手の上、中、下の3箇所の神所。稲荷山の副峰、散在ヶ峰、天宮塚、天神川上流の岩神、売布神社の飯塚山、大芝谷、姫天、龍神譲葉峰の岩倉のナガモッコク尾根、譲葉山、岩倉山、南側の行者山、砂山権現と神道信仰に関わる地名が多い。

ナガモッコク尾根 ナガモッコクの名の由来は不詳。モッコクはツバキ科の常緑高木。樹形から神社の境内に植えられるが、この尾根には見当たらない。

六甲縦走路 六甲山上を宝塚と須磨浦公園まで結ぶ縦走路。約56km。

岩原山 標高573m。宝塚市の最高峰、縦走路から少し北へ入ったところにある。

譲葉山 国土地理院標高514m。東西500m、南北200mの範囲に4峰がある。西峰555.2m、中峰528.1m、北峰524.3m、東峰512.9m。清少納言「枕草紙」12段「峰は」には、「峰は譲葉の峰、阿弥陀の峰、弥高の峰」とある。それぞれ神、佛、儒の三福対になっている。譲葉には2説あり、もう1説は淡路島諭鶴羽山ともいわれる。清少納言の「譲葉の峰」はこの東六甲全体を指すものかもしれない。ユズリハはユズリハ科の常緑高木。春、枝先に新葉が出ると古い葉が落ちることから譲る葉から縁起のよい木といわれ、正月飾りに使われている。

赤子谷・行者山十字路 六甲縦走路と太多田川赤子谷の道と南側行者山の道の十字路。

岩倉山 標高488.4m。山名の由来は「神が座す磐座(いわくら)」に由来していると言われている。頂上には小規模な祠がある。近くに阪急電鉄の通信用の反射板がある、展望よし。

砂山権現 塩尾寺の上社。仲哀天皇の皇子麿坂王(かごさかおう)が弟忍熊王(おしくまおう)とともに継母に当る神功皇后の子(後の応神天皇)との皇位争いに敗れ、ここに葬られている。

塩尾寺(えんぺいじ) 聖徳太子が四天王寺を建立し、念仏三昧に入られたとき武庫山の上に仏三尊を感得され武庫七寺を建立し観音菩薩像を安置された内の一寺。十一面観音菩薩。

宝塚温泉の起原(伝承) 室町幕府代十二代の将軍足利義晴の時代(15～46年)このあたりに住む貧しい一人の老女が悪瘡をわずらい心身ともに苦しみながらも 月々に中山寺に参り、懸命に信心したところ、ある夜僧侶が夢の中に出て来て「武庫川にある大柳の下(現在の市立宝塚温泉近く)に湧いている霊泉に湯浴みをすれば、病は癒える」と告げて消え去りました。教えられたとおり霊泉を湯にして身を洗っていたところ、日ならずして病は癒えた。この老女の願により大柳で「柳の観音』『塩出観音」と呼ばれる観音像が刻まれ、お寺が建立されてのちの塩尾寺となった。今の若水の敷地内に、泉源の記念碑が建てられ、県道の橋も柳橋という。

塩谷川 岩倉山東側の紅葉谷を源流とする一般河川。

宝塚温泉泉源 塩谷川右岸にある宝塚温泉の泉源。タンクが2基ある。

宝来橋 明治35(1902)年頃宝塚に初めて架かった橋で以降何度も洪水で流失している。現在のS字橋の前の橋は昭和30(1955)年に完成したがいずれも人道橋であった。現在の橋は平成6年に完成した。デザインはフランスの彫刻家マルタ・パン氏。同氏の彫刻「梓とられた風景」が橋の左岸側の袂にある。

阪急宝塚駅 大正10(1921)年阪神急行電鉄西宝線の開通と同時に開業。

JR宝塚駅 明治30(1897)年阪鶴鉄道の駅として開業。国鉄、JRと引き継がれる。